

### 3. 野菜類

#### (1) トマト

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ジベレリン水溶剤	空どう果防止	花房散布 (トマト落果防止剤と併用)	開花時	1花房あたり1回(ジベレリン種子への処理は1回、1花房あたり1回)	
ジベラ錠					
ジベラ錠5					
ジベレリン					
ジベレリン粉末					
ジベレリン液剤					
トマトトーン	着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進	散布	開花前3日～開花後3日位 (1花房で3～5花位開花した時期)	1花房あたり1回(4-CPA 1花房につき1回)	
フルメット液剤	放射状裂果軽減	幼果に散布	幼果期	1果房当たり1回(ホルクロルフェニロン1果房当たり1回)	

注 1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	使用薬剤	使用方法	使用上の留意点
着果促進	トマトトーン (4-CPA 0.15%)	1. 各花房の3～5花が開花したとき、低温時(20℃以下)50倍液、高温時(20℃以上)100倍液を花房全体に散布する。	1. 25℃以上の高温時散布は奇形果の発生が多いので、なるべく朝のうちに処理する。 2. 1つの花に2度散布しない。
着果促進 空洞果防止	トマトトーン (4-CPA 0.15%) + ジベレリン水溶剤 ジベラ錠 (ジベレリン 3.58%) ジベラ錠5 (ジベレリン 2.78%) ジベレリン (ジベレリン 3.1%) ジベレリン粉末 (ジベレリン 3.1%) ジベレリン液剤 (ジベレリン 0.5%) (ジベレリン 0.63%)	1. トマトトーン溶液にジベレリンが10ppmになるように混用し、1花房5ml散布する。	1. トマトトーンの留意点と同様。 2. 開花当日から開花後3日位までに処理する。
放射状裂果軽減	フルメット液剤 (ホルクロルフェニロン 0.1%)	1. 各果房の幼果期にホルクロルフェニロンの5～20ppmを幼果に1回散布する。	1. 各果房の最大果実の直径が4cm以下の時期までに散布する。 2. 開花花房には使用できない。 3. 高温時の散布は避ける。

## (2) 加工用トマト

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
エスレル10	熟期促進	全面散布	収穫打切り予定日の2～3週間前	1回(エホン1回)	トマト(加工用)

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	使用薬剤	使用方法	使用上の留意点
熟期促進	エスレル10 (エホン10%)	1. 出荷等級格差がなくなる時期の20日前に、300倍液を10a当り1000全面散布する。	1. 散布直後葉が黄変するが、7日程度で回復する。 2. 健全葉が少ないと効果が劣る。

## (3) ミニトマト

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
トマトトーン	着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進	散布	開花前3日～開花後3日位	1花につき1回(4-CPA1花につき1回)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	使用薬剤	使用方法	使用上の留意点
着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進	トマトトーン (4-CPA 0.15%)	1. 開花3日前～3日後の間に低温時(20℃以下)50倍液、高温時(20℃以上)100倍液を花に散布する。	1. 25℃以上の高温時散布は奇形果の発生が多いので、なるべく朝のうちに処理する。 2. 1つの花に2度散布しない。

## (4) ズッキーニ

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
トマトトーン	着果促進	散布	開花当日	1花につき1回(4-CPA1花につき1回)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	使用薬剤	使用方法	使用上の留意点
着果促進	トマトトーン (4-CPA 0.15%)	1. 開花当日の花に50倍液を、柱頭基部まで濡れるように散布する。	1. 1つの花に1回散布する。 2. 散布処理により、果実尻部がやや太くなる傾向がある。

## (5) いちご

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ジベレリン水溶剤	ランナー発生促進	茎葉散布	採苗時ランナー発生直前～発生初期	1株当たり1回（ジベレリン1株当たり1回）	いちご（親株床）
ジベラ錠					
ジベラ錠5					
ジベレリン					
ジベレリン錠剤					
ジベレリン粉末					
ジベレリン液剤					

使用目的	使用薬剤	使用方法	使用上の留意点
ランナー発生促進	ジベレリン水溶剤 ジベラ錠 （ジベレリン 3.58%） ジベラ錠5 （ジベレリン 2.78%） ジベレリン （ジベレリン 3.1%） ジベレリン錠剤 （ジベレリン 4.55%） ジベレリン粉末 （ジベレリン 3.1%） ジベレリン液剤 （ジベレリン 0.5%） （ジベレリン 0.63%）	1. 採苗専用株（親株）に、ジベレリン 50ppm を1株当たり 10ml 茎葉に散布する。	1. ランナーが伸びた状態での使用はできない。 2. 処理した株からは収穫ができない。また、翌年も栽培株（二年生株）として利用できない。 3. 夏秋どりいちごの採苗専用株で使用する。

## (6) キャベツ

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
スミセブンP液剤	育苗期の伸長抑制	茎葉散布	定植前子葉展開期～本葉3葉期	1回（ウニコザールP 1回）	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	使用薬剤	使用方法	使用上の留意点
育苗期の伸長抑制	スミセブンP液剤 （ウニコザールP 0.025%）	1. 定植前本葉2～3葉期に500～1,000倍液を30×60cmセルトレイ1箱（使用土壌1.5～40）当たり100ml 茎葉に散布する。	1. 総使用回数は1回とする。 2. 周辺作物及び土壌に飛散しないように散布する。 3. 健苗育成管理の元で使用する。

## (7) セルリー

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ジベレリン水溶剤	生育促進、肥大促進	葉面散布	収穫予定7～20日前	1回（ジベレリン2回以内（種子への処理は1回以内、は種後は1回以内））	
ジベラ錠					
ジベラ錠5					
ジベレリン					
ジベレリン粉末					
ジベレリン液剤					

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	使用薬剤	使用方法	使用上の留意点
生育促進	ジベレリン水溶剤 ジベラ錠 （ジベレリン 3.58%） ジベラ錠5 （ジベレリン 2.78%） ジベレリン （ジベレリン 3.1%） ジベレリン粉末 （ジベレリン 3.1%） ジベレリン液剤 （ジベレリン 0.5%） （ジベレリン 0.63%）	1. 収穫予定7～20日前に50～100ppm液を10a当り20～2000葉面散布する。	1. いずれも9月末以降収穫する秋作のものに限り使用する。なお、気温15℃以下になると効果が落ちる。

## (8) アスパラガス

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ビーエー液剤	萌芽促進	茎葉散布	夏秋どり、慣行最終収穫予定日の10～30日前（但し、収穫前日まで）	1回（ベンジルアミノリン1回）	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	使用薬剤	使用方法	使用上の留意点
夏秋どりの萌芽促進	ビーエー液剤 （ベンジルアミノリン 3.0%）	1. 夏秋どり、慣行最終収穫予定日の30～10日前に300倍液を10a当り100～2000茎葉に散布する。	1. 薬量は厳守する。 2. 若茎にかかると奇形になる場合がある。